

## 自己評価結果公表シート <平成 28 年度>

1.

2. 本園の教育目標

子どもたちに豊かな環境を保障して、子どもたちが環境との出会いの中で、驚いたり、感動したり、発見したり、考えたり、自らの興味や関心の要求の質を高め、豊かなあそびや仕事のある生活を展開し、人間としていちばん大切な生きる力を身につけられる保育を目指している。

幼稚園の教育課程の内容を再確認して、教職員全体で共通理解を図り、保育の質を高めていく。また、子どもの発達を把握するために園内研修の定期的に行い、幼児理解とよりよい援助を学ぶ機会を設ける。さらに外部の研修会にも積極的に参加し、保育者の質の向上に努めていく。

3. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

4. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由
園内研修の充実	A	毎日職員会議にて、連絡事項や子どもの発達の様子、気になる子どもへの配慮などの共通理解を図ることができた。また定期的に保育実践の園内研修を行い、保育者一人ひとりが保育の知識や適切な援助方法を身につけることができた。
特別支援教育	B	市が行う事業の一つである専門機関による巡回相談を新しく導入したことで、気になる子に対する専門家からの意見や助言を得ることができて、保育をするうえでの参考になった。
保護者会の負担軽減	A	近年、母親のパートタイマーなどの就労が増えたりする中で、今までのような保護者会の活動では負担が大きいという見解があった。そこで、保護者全員にアンケートを行い、具体的な改善点を見出すことになった。その結果、保護者会役員の負担を減らす施策が必要となることが示され、年度

		初めから役員の活動が大幅に削減された。
小学校との連携	B	小学校探検に行き、小学生との交流や学校見学を行い、就学への不安を和らぎ、期待感をふくらませることができた。但し、学校とのカリキュラムを合わせることは容易ではないことも実状も窺えた。

## 5. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	年度末に全教職員が自己評価を行い、自らの課題を見出した。そこで、自らの意識改革と共に、本園の教育方針を明確にして、教育課程を再認識することができた。また、園内研修を敵的に行ったり、園外研修にも参加することで、子ども一人ひとりの理解を深めたり、それぞれ保育の質を高めることができ、園全体としても保育力の向上が見られた。

## 6. 今後取り組むべき課題

	具体的な取り組み方法
健康教育	自園給食の実施に向けて、まずはハード面を整えていきたい。 また、体操着を新しいタイプのものへ切り替え、紫外線や熱中症予防に努めていきたい。
安全管理	緊急時の連絡網がスムーズにっていない現状があるので、モバイルサイトではなく、緊急時のメール配信サービスを行える環境を設けていきたい。 また、引き続き園庭内の手作り遊具の定期的な点検を行い、子どもの安全面での配慮を強化していきたい。
動物飼育	ポニーやヤギ、ウサギ、チャボ、魚などの生物を飼育し、子どもの豊かな心や愛情、命の尊さなどを育む保育を継続して行っていきたい。
異年齢の交流	「お別れ交流会」「動物当番引継ぎ」など、異年齢同のふれあいから、子どもたちの成長が多くみられている。そこに重点をおいて、異年齢で交流する機会を定期的に行っていきたい。